

## 1. 皮膚疾患

### 他科領域に関連した医原性皮膚障害 (III)

青木見佳子

日本医科大学皮膚科学教室

#### 1. Dermatologic Disorders

##### Iatrogenic Skin Diseases (III)

Mikako Aoki

Department of Dermatology, Nippon Medical School

#### 術後脱毛症 (Pressure Alopecia) (図 1)

長時間にわたる全身麻酔下での手術を受けたあとに生じる頭部の限局性脱毛である。頭頂部から後頭部にかけての帯状ないし三日月状、円弧状の脱毛斑で、術中の円座枕の圧迫による pressure alopecia と考えられている。実際には術後数日以内に腫脹、紅斑、びらん、疼痛などは出現しているが、侵襲の大きな手術後には全身管理、術創管理に治療が集中し見過ごされることが多い。深い潰瘍から瘢痕を形成しない限り多くは一過性で、通常術後4カ月目くらいまでに発毛をみる。予防には円座枕の材質の変更や術中の定期的な頭位変換、頭部マッサージが重要と考えられている。

#### ゲフィニチブ (イレッサ®) による皮膚障害

ゲフィニチブは上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ阻害作用による抗悪性腫瘍薬であり、手術不能または再発非小細胞肺癌に使用される。1日1回経口投与で、一定期間観察後は外来通院で使用できる薬剤であるが、爪囲、爪郭炎 (図 2)、瘻瘡様発疹 (図 3) など多彩な皮膚障害を呈する。皮膚障害の多くは軽症または中等症であるが、爪囲、爪郭炎は疼痛を伴って日常生活が困難になることもある。瘻瘡様発疹に対しては抗生物質含有製剤など通常の瘻瘡治療薬は無効で、ステロイド外用が有効なことが多い。

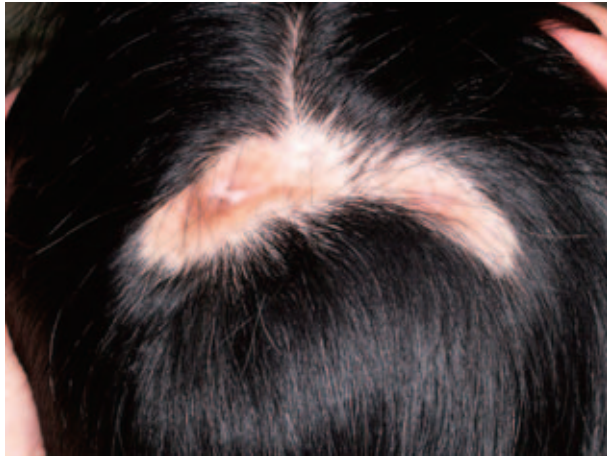


図1

40歳，女性．胆嚢癌で拡大肝右葉切除および腓頭十二指腸切除術を受けた．手術時間13時間，体位は仰臥位，術中体位変換はなく，ドーナツ枕を使用，麻酔は硬膜外麻酔と全身麻酔の併用であった．術後はICUに収容され，術後2，3日から頭頂部の疼痛を自覚していた．退院後，美容院で脱毛を指摘され，術後2カ月半で皮膚科を受診した．初診時，頭頂部から後頭部にかけて幅1.5cm，長さ約8cmの弧を描く様な脱毛斑を認め，紅斑，色素沈着を伴っていた．



図2

72歳，男性．肺癌に対しゲフィニチブ内服開始2カ月後より，両手，両足の複数の指の爪郭部に肉芽形成を認め，軽快と再発を繰り返す．

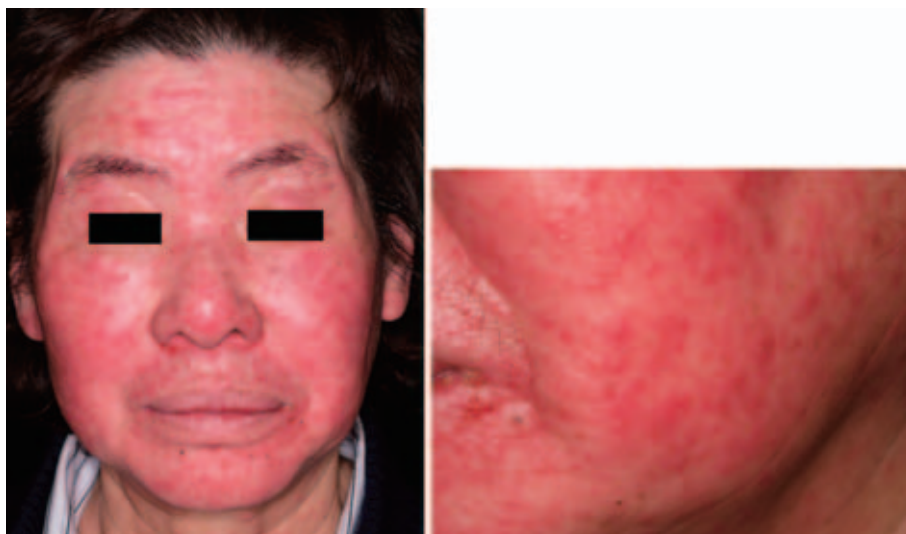


図3

64歳，女性．肺癌に対しゲフィニチブ内服4カ月後より，顔面，四肢に瘰癧様発疹出現．